

偶 感

石 田 辰 午

技術革新の時代来る、日々新たな人類の知識の拡大や応用技術の進展は原子力平和利用をはじめ人工衛星などのめざましい成果を生み、一般の科学に縁の薄いものにまで新たな時代の黎明を思い知らせるに充分である。

日進月歩の技術によって生産方式全体の陳腐化、さらには製品そのものの陳腐化が目まぐるしいまでに早くやって来る。生産工程中に強酸や強アルカリ、あるいは高温高圧を使用する化学工業では、これだけでも設備の老朽化は激しく長期に使用に耐えないものが多いか、同一製品を製造するために全く異なる原料から出発し、あるいは全然新しい工程による方式があらわれて、全装置が陳腐化してしまうことは、今年の石油化学や、ガス化学の企業化に際してその例がみられるとおりであり、またある種の合成樹脂のように、新製品の出現によって企業そのものが陳腐化することすらないではない。

これらの技術の進展が近代企業経営の重大要素である「目標の設定とダイナミックな展開」に対し、大きな影響を与え、むしろこれを左右していると云っても過言ではあるまいと思われる。すでにわれわれは技術について「現状に止るものは敗退する時代」に生きているのではなかろうか。技術の開発研究の緊急、かつ重要なことを、ひしひしと身に感ずる次第である。日々の研究にたずさわる研究員のみならず、工場全技術員の熱意と闘志と勤勉を切に期待するゆえんである。

(取締役・工務部長)